

ブリッジ・カレッジ「上級生からのメッセージ」を担当して

基盤教育院 松久保 暁子

はじめに

「上級生からのメッセージ」（以下、「メッセージ」と記す）は、ブリッジ・カレッジの締め括りとして行なわれた「もうすぐ大学生になるあなたへのメッセージ」の一部で、ブリッジ・カレッジの参加者に向けて、在校生が自身の大学1年生だった頃の生活を語るプログラムである。「メッセージ」のコーディネーターと司会を担当した立場から、「メッセージ」のねらいと内容、そしてブリッジ・カレッジの参加者と1年生の頃の大学生活を語った在校生の感想から、この取り組みの意義を述べることにしたい。

ねらいと内容

「メッセージ」は、ブリッジ・カレッジに参加した入学予定者が、在校生らによる大学生活の体験談やアドバイスを聞くことで、4月から始まる大学生活への動機付けを図ると共に、大学生活への不安を少しでも解消するようにと実施された。在校生らは、自身の1年生の時間割をパワーポイントで写しながら、大学での学びだけではなく、部活やサークル活動、一人暮らしなど、大学生活全般を参加者に紹介した。メッセージの主な内容は次の通りである。

(1) 大学1年生の授業内容、高校での学びとの違いなど。1年生のときにやっておくべきこと。

(2) 大学生活について（部活やサークル活動と授業との両立、一人暮らしの様子など）

(1) では、在校生らは自身の1年次に履修した全学必修科目の授業内容や、授業の様子などを紹介した。1年次の春学期の場合、どの学群の学生の時間割を見ても全学必修科目がほとんどを占めていたが、秋学期になると各学群の専門科目が多くなり、それぞれの学群の特徴を垣間見ることができた。例えばリベラルアーツ学群の学生は、1年次は幅広く教養を身につけるために、関心のある様々な科目を履修していた。そして総合文化学群の学生は、講義だけではなく、演劇を学ぶための実技の科目があること、ビジネスマネジメント学群の学生は、それぞれのコースに応じて1年次の段階から比較的専門的な知識を得られる科目を履修できること、そして健康福祉学群の学生は国家資格をはじめとした資格、または受験資格を得るための科目を中心に履修していることを紹介していた。またスピーチを担当した、全ての在校生が、自分が所属する学群以外の科目を比較的自由に履修できるシステムが確立されているので、それぞれの興味関心に応じて様々な分野の科目を履修することができ、視野が広がると語っていた。このように学群やプログラムの枠を超えて、

幅広い分野を学ぶことができる本学の特徴を、実際に本学で学んでいる在校生から直接聞くことは、参加者にとっても、そして我々教職員にとっても貴重な機会であったと思う。また1年次に基礎を固めないと2年次からの専門的な科目の内容を理解できなくなるので、1年次の学びが非常に大切だったと振り返る学生もいた。

(2) では、部活と勉強との両立の方法を含めた大学生活の全般を紹介した。在校生らは皆、大学での授業だけではなく、部活動やサークル活動、ボランティアなどの授業外の活動を充実させることで、大学生活がさらに充実することを語っていた。そして筆者にとって最も印象的だったのは、「1年生の春学期は生活に慣れるのがとても大変で、授業に慣れるので精一杯だった。しかし秋学期になると生活に慣れてきて、友達や色々と話せる先生とも知り合いになり、大学生活をやっと楽しめるようになった」という、在校生の率直なメッセージだった。4月から始まる大学生活に期待と不安を抱えている参加者にとっては、何よりも貴重なメッセージだったのではないかと思う。

参加者と在校生の感想

参加者を対象としたアンケート結果では、「メッセージ」について「とてもよかった」、「よかった」と回答した合計がほぼ100%で、非常に高い満足度が示された。また自由記述によるアンケートでは、「大学入学前に大学の授業の雰囲気を知ることができた。先輩方、教職員の皆さんが積極的に大学について教えてくれたので、とても安心感を得ることができた」や「先輩からの言葉はすごくためになった。話を聞いてよかった」という回答を多く得ることができた。

また、協力してもらった在校生からは、スピーチ後に「人前に立って話をするとなると、とても緊張してしまう私ですが、ブリッジ・カレッジでの体験は、私にとって本当に貴重な良い経験となった」、「1年前の自分を振り返ることができてよかった」、「後輩には大学生活を楽しく過ごしてほしいと思っているので、入学前に大学生活の情報を伝えられたのはよかったです」という感想が寄せられた。

最後に

参加者によるアンケート結果から、在校生による話を聞くことによって、入学前の不安が軽減されていることがわかる。さらに協力してくれた在校生にとっても、自らを語ることによって自身を振り返ることができた機会になったようだった。また、筆者自身、それぞれの学群の学生がどのような科目を履修し、学んでいるのかを把握する機会がなかったため、今回のメッセージは非常に有意義であった。また、それぞれに目的意識を持って大学生活を送っている様子を聞くことができ、筆者も在校生らのメッセージに励まされた。そして、アンケート結果からもわかるように、後輩になる参加者に大学生活を楽しんでほしいという在校生の思いのこもったメッセージが、参加者の大きな励ましになっていることから、「メッセージ」は大いに意義のある取り組みだと考えている。